

管内関係機関 担当者 様

感染症発生動向について

このことについて令和7年第28週(7月7日～7月13日)及び6月の動向をお知らせします。

定点あたり患者数(1医療機関当たりの平均報告数)

感染症の種類	県北保健所管内 (平戸市、松浦市、佐々町)			長崎県	全国
	26週	27週	28週	28週	28週
インフルエンザ	0	0	0	0.49	0.25
新型コロナウイルス感染症	4.00	4.33	6.33	2.76	2.40
RSウイルス感染症	6.00	10.00	2.00	0.39	0.38
咽頭結膜熱	2.00	●5.00	●2.50	0.52	0.59
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	5.00	2.50	1.50	2.84	2.30
感染性胃腸炎	2.50	3.00	7.00	4.03	5.39
水痘	0	▲1.00	0	0.61	0.49
手足口病	0	0	0	0.58	0.57
伝染性紅斑	0	0	0	1.26	2.06
突発性発疹	1.00	0.50	1.50	0.61	0.37
ヘルパンギーナ	3.50	4.50	●10.00	4.32	1.75
流行性耳下腺炎	0	0	0	0.10	0.07
急性出血性結膜炎				0.50	0.02
流行性角結膜炎				2.00	0.86
細菌性髄膜炎	0	0	0	0	0.02
無菌性髄膜炎	0	0	0	0.08	0.06
マイコプラズマ肺炎	0	0	0	0.17	0.91
クラミジア肺炎	0	0	0	0	0.01
感染性胃腸炎(ロタウイルス)	0	0	0	0.08	0.01

急性呼吸器感染症(ARI)	44.67	44.00	48.33	57.65	52.66
---------------	-------	-------	-------	-------	-------

●:警報レベル ▲:注意報レベル

【トピックス】 感染性胃腸炎に注意しましょう。

第28週の報告数は125人で、前週より22人多く、定点当たり報告数は4.03でした。地区別にみると、西彼地区(10.67)、県央地区(8.20)、県北地区(7.00)は、他の地区より多くなっています。今後も動向に注意し、予防に努めましょう。

本疾患は、細菌又はウイルスなどの病原微生物による嘔吐、下痢を主症状とする感染症です。原因はノロウイルスやロタウイルス、エンテロウイルス、アデノウイルスなどのウイルス感染による場合が主流ですが、腸管出血性大腸菌などの細菌が原因となる場合もあります。手洗いの励行とともに、体調管理に注意して感染防止に努め、早めに医療機関を受診しましょう。

【トピックス】 ヘルパンギーナに注意しましょう

ヘルパンギーナは、4歳以下の乳幼児を中心に夏期に流行する小児の急性ウイルス咽頭炎です。感染から2～4日後に38度以上の突然の発熱に続いて、のどの痛みと口の中の水泡が現れます。ほとんどが2～3日以内に回復しますが、合併症として、脱水症や熱性けいれん、まれに髄膜炎や心筋炎を起こすことがあるので、注意が必要です。

主な原因はエンテロウイルスで、感染経路は、飛沫感染と患者の便に汚染されたオムツや下着、器物からの接触感染(糞口感染)です。便からは1週間から4週間にわたりウイルスが検出されるため、回復後も感染源となり得ます。保護者は乳幼児に手洗いを励行させて、感染防止に努め、体調管理に気をつけてあげましょう。

第28週の報告数は134人で、前週より23人少なく定点当たりの報告数は4.32でした。地区別では、10保健所中5保健所で警報レベルの報告数となっています。例年7月に報告が多くなりますので、今後の動向に注意し、予防に努めましょう。

【トピックス】 百日咳の報告が多くなっています。

百日咳は、主に百日咳菌の感染によっておこるけいれん性の咳発作を特徴とする気道感染症です。潜伏期は通常5～10日で、かぜ様症状で始まり、次第に咳の回数が増え程度も激しくなります。夜間の咳発作が多いことも特徴で、回復までに2～3か月かかることもあります。また、乳児では、肺炎、脳症を合併し、重症化することもあります。

2025年第28週には35件の報告があり、年代別では、10代(18人)および10代未満(12人)が多くなっています。また、2025年第28週までの457件の報告においても、10代(232件、51%)、10歳未満(123件、27%)が多く、全体の約8割を占めています。感染経路は飛沫感染ですので、咳エチケット、手洗い、手指消毒で予防に努めましょう。